

# 2022年度 株主との対話実施状況等

---

# 2022年度 株主との対話実施状況等(1/3)

## 【対話・フィードバック概要】

項目	状況
<b>主な対応者</b>	経営層： 社長、副社長（CFO、経営戦略本部担当役員）、社外取締役等 事務局： 経営戦略本部CSR推進グループ（機関投資家対応）
<b>対話株主 （概要）</b>	<b>国内外機関投資家等に対して以下を実施</b> <b>個別面談</b> ：機関投資家(国内：98件、海外：53件)、アナリスト等56件 （ファンドマネージャー、ESG担当、議決権行使担当者など） <b>決算・経営計画説明会</b> ：4回（国内・海外機関投資家） <b>見学会・事業説明会等</b> ：3回（国内・海外機関投資家）
<b>フィードバック実施状況 （経営会議）</b>	・取締役会：年1回株主の声をフィードバック ・その他：社外取締役との対話内容等、実施毎に取締役会でフィードバック

# 2022年度 株主との対話実施状況等(2/3)

## 【対話の主なテーマ、株主の関心事項】

項目	関心事項
<b>経営戦略 ・資本政策</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○資本効率(ROE,ROIC等) 重視の姿勢</li> <li>○PBR向上に向けた取り組み（低PBRの要因分析、計画への織り込みのスケジュール感等）</li> <li>○安定配当継続の姿勢</li> <li>○JERAとの今後の関わり方（ガバナンス、資本関係、電力等調達の展望）</li> </ul>
<b>財務関係</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利益水準の早期回復に向けた対応策               <ul style="list-style-type: none"> <li>ミライズ：販売政策の見直し、市場変動リスク抑制策、燃調上限超過への対応</li> <li>PG：託送料金改定の影響、需給調整費用高騰への対応、最終保障供給の動向</li> <li>JERA：実力収支水準の見極め（ウクライナ情勢の影響等）</li> </ul> </li> <li>○戦略的投資の進捗・収支影響</li> <li>○浜岡原子力発電所の再稼動に向けた進捗状況</li> </ul>
<b>ESG</b>	<b>E</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○脱炭素目標達成に向けた各施策に係る具体的な道筋・CO2削減貢献量等、具体的情報の開示               <ul style="list-style-type: none"> <li>－安定供給と脱炭素化の両立の蓋然性（アンモニア・水素等サプライチェーン構築の計画進捗等）</li> <li>－利益目標への影響（投資額規模含）</li> </ul> </li> </ul>
	<b>S</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○女性取締役・管理職比率向上に向けた取組</li> <li>○人財戦略の方向性・取り組みの進捗</li> </ul>
	<b>G</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○社外取締役比率の向上</li> <li>○報酬へのESG指標組込の検討有無</li> <li>○スキルマトリクスについて、ESG（特に「脱炭素」）の項目追加の検討有無</li> <li>○独禁法関係、情報漏洩関係等のコンプライアンス事象の事実関係、コンプライアンス対応策</li> </ul>

# 2022年度 株主との対話実施状況等(3/3)

## 【対話を通じた改善事項】

項目	改善事項
資本効率性指標	○2022年4月公表中期経営計画において、経営目標にROIC指標を導入。
脱炭素化に係る 開示	○TCFD開示について、2019年に賛同し、2020年より開示。 ・資本市場の声を踏まえ、開示先進事例等も確認しつつ、定量的・具体的な開示充実に注力 ・「財務影響(火力発電資産の耐性等)」等の定量的開示についても、可能な範囲で順次対応 ( <a href="#">第99期定時株主総会招集通知 P.27</a> に今後の開示予定項目を記載)
スキルマトリクス	○スキルマトリクスに環境スキルを追加 (「電力供給・環境に資する技術」) ( <a href="#">第99期定時株主総会招集通知 P.18</a> )
社外取締役 との対話	○資本市場からの社外取締役との対話要請に基づき、個別面談を実施 (参考) 2023年度においても、議決権行使に係る対話に社外取締役が対応